

第57回試験研究成果発表会（野菜Ⅲ）発表概要

【日時】令和2年1月16日（木）13:00~16:35

【会場】千葉県立 東部図書館 研修室（旭市ハの349）

発表1 成果発表（13:10~13:35）

べたがけ被覆による晩冬どり露地ダイコンの寒害低減効果

東総野菜研究室 千吉良 敦史

晩冬どり露地ダイコンは、トンネル設置の労力・コストがかからないため栽培面積が増加しているものの、寒害発生による秀品率・収量の低下が問題となっています。特に2月以降、抽根部の皮むけや首周りの傷みが発生します。そこで、寒害耐性が高い品種にべたがけ被覆することによる寒害の低減技術を紹介します。



べたがけ栽培のダイコン

発表2 成果発表（13:35~14:00）

4~5月どり加工・業務用キャベツの品種と栽培法

東総野菜研究室 町田 剛史

近年、外食や中食に仕向けられる加工・業務用キャベツの需要が増え、特に端境期である4~5月の安定供給が強く求められています。そこで、種苗メーカー、他県の試験研究機関等とのプロジェクト研究を実施した中で選定された夏播き4月どり、秋播き5月どりに適する有望品種と、その栽培法について紹介します。



夏播き4月どりのキャベツ

発表3 成果発表 (14:00~14:20)

厳寒期どり加工・業務用キャベツに発生する結球内部障害

東総野菜研究室 町田 剛史

厳寒期どり加工・業務用キャベツにおいて、結球内部に発生する黒変等の障害は、異物混入と同様に扱われ、返品や出荷停止となることがあります。そこで、数種類ある結球内部の黒変症状について、結球内温度、結球のしまり具合、品種等の違いによる発生の時期、部位及び程度について報告します。



キャベツの黒変症状

発表4 情報提供 (14:20~14:40)

黒皮種なしスイカ「ブラックジャック」の収穫適期

東総野菜研究室 千吉良 敦史

食味が今一つと言われていた種なしスイカですが、近年は良食味の品種である黒皮種なしスイカ「ブラックジャック」の栽培が県内で広がっています。糖度 (Brix%) 13度以上が期待できる品種ですが、収穫適期の判断が難しいため、未熟な状態で収穫してしまい、出荷時の糖度が11度台となってしまう場合があります。そこで、より甘いスイカを収穫するための収穫適期の判断方法について紹介します。



黒皮種なしスイカ
「ブラックジャック」

休憩 (14:40~14:55)

発表5 成果発表（14:55～15:20）

積算温度を用いたメロン品種「タカミ」の収穫判断

東総野菜研究室 竹内 大造

「タカミ」の収穫は離層の発現を目安に行われていますが、近年気象条件の変化や作期の拡大などに伴い、離層の発現と果実内部の品質が必ずしも一致しなくなってきました。また、離層発現の判断は熟練の目を要することから、誰でも容易に利用可能な積算温度を用いて、果実内部の品質との関係及び収穫適期を明らかにしました。



「タカミ」メロン

発表6 成果発表（15:20～15:45）

「タカミ」メロンの打音解析測定装置を用いた熟度予測

流通加工研究室 藤井 雄樹

メロンの消費量は減少傾向ですが、原因の1つはメロンの食べごろがわかりにくいためとされています。そこで、千葉県産の「タカミ」メロンで非破壊による熟度予測方法を開発しました。メロンを叩いた時の固有振動数と果肉硬度には相関が認められ、「タカミ」が「食べごろ」となる固有振動数は201Hzです。さらに、貯蔵2日後以降の固有振動数の減少は5.6Hz/日であるため、固有振動数から「食べごろ」までの日数を予測できます。



打音解析測定装置

発表7 成果発表（15:45～16:05）

10月どりブロッコリーの優良品種の選定

東総野菜研究室 竹内 大造

ブロッコリーは、一般家庭・業務加工用とも消費量が安定している品目です。千葉県では11月上旬～2月に収穫する作型が主要な作型ですが、これより早い10月どりでは、病害虫の多発や花蕾の開花リスクがあります。今回、「第66回千葉県野菜品種審査会」において、これらの発生リスクが低い10月どりの優良品種を選定しました。



優良品種「SK9-099」

発表8 成果発表（16:05～16:25）

ブロッコリーセル成型苗の定植適期拡大技術と水田輪換畑の地下水位の管理

東総野菜研究室 竹内 大造

セル成型苗は小面積で集約管理でき、自動定植機を用いることが可能なため定植作業の省力化にも繋がります。一方で、培養土量が少なく徒長しやすいために定植適期が限られていることがデメリットとなっています。そこで、追肥を行わずに育苗したところ定植適期を拡大でき、早播きを行うことで収穫時期の遅れを緩和することが可能となりました。また、水田輪換畑での取り組みが広がっていることから、管理目標となる地下水位を明らかにしました。



ブロッコリーの無追肥長期育苗

発表9 情報提供（16:25～16:30）

土づくりのすすめ

安全農業推進課 佐久間 真由子

健康な作物づくりのためには、良好な有機物や土壌改良資材の適正な施用などにより、バランスの取れた土づくりが大切です。そこで、県では、土づくりの目的と要点をわかりやすく解説したリーフレットを作成しましたので、紹介します。

